

# 小学校外国語活動を通じた大学と小学校の連携 ー学生ボランティアを活用した取り組みを中心にー

五十嵐淑子・加藤真理・鈴木 渉

## 1. はじめに

小学校学習指導要領が平成 20 年 3 月に告示され、平成 23 年度から、小学校第 5 学年及び第 6 学年を対象に外国語活動が完全実施される。本稿では、その移行期間である平成 21 年度（平成 21 年 4 月から平成 22 年 3 月）に、仙台市立旭丘小学校及び川平小学校の学級担任や担当教員による外国語活動を、宮城教育大学英語教育講座の教員及びボランティア学生が支援した実践を報告する。

外国語活動の実施において、指導計画の作成や授業の実施については、学級担任や担当教員が行うが、地域の教育資源を活用し、ネットワーク化を進める必要がある。そこで、外国語活動（英語活動）を実践・推進することのできる小学校教員の養成が行われている宮城教育大学が、地域の教育資源として、学部学生を小学校に定期的に派遣し、外国語活動をボランティアとして支援することは意義があると考えた。更に、学部学生が外国語活動の授業を参観すること、教材作成を補助すること、ティーム・ティーチングを行うことなどを通して、大学で学んでいる理論や実践を現場で演習する機会を得ることは有意義であると考えられ、仙台市立旭丘小学校及び川平小学校の教員の協力を得て、本実践を行った。

以下では、まず、仙台市立旭丘小学校における実践を報告する。次いで仙台市立川平小学校における取り組みを紹介する。最後に、本実践を通して得られた配慮すべき事項や今後の課題を述べる。

## 2. 仙台市立旭丘小学校での取り組み

### 2.1 連携にあたって

#### 2.1.1 外国語活動完全実施に向けて

旭丘小学校では、5、6 年生とも年間 18 時間を設定し、2 学年共に『英語ノート 1』を活用し『英語ノート 2』の内容も一部取り入れて年間指導計画を立て、学習を進めることになった。また、昨年度まで、国際交流・国際理解の一環として実施していた英語に親しむ時間の成果を踏まえて、学校裁量の時間の中で 1～4 年生でも英語活動を設定し、教科以外の時間で継続実施することになった。時数は、1 年生は年間 3 時間、2～4 年生は年間 5 時間である。何にでも興味を示し、楽しみながら取り組むことができる 1～4 年生のうちから英語やそれを話す外国人に親しむことで、5、6 年生からの外国語活動へ抵抗なく移行できるようにしたいと考えている。

## 2. 1. 2 児童の実態

低学年ほど新しいものに対する興味・関心が強く、これまでの英語活動や国際交流活動でも、言葉や動きをそのまままねて、ダンスをしたり歌ったり、楽しく学習を進めている。しかし、学年が上がるにつれて、興味はあるものの恥ずかしいという気持ちが湧いたり、うまくできるかどうかを気にするようになり、活動に消極的になる児童が増える傾向にある。一方で、英語を習っている児童や英語が好き、おもしろいという児童は、意欲的に発言したり活動したりでき、経験や興味・関心の違いによる取り組みへの個人差は大きい。

## 2. 1. 3 教職員の実態・意識

年間数回ではあるが、高学年において外国人を招いての国際交流活動を継続してきたこと、中学校のALTの小学校への派遣が開始され全学年で英語活動を実施してきた経験から、ゲストティーチャーをサポートしながら、外国語（英語）や外国の文化に親しむ授業を行うことには慣れてきている。しかし、今回、学級担任が主導して外国語活動を年間 35 時間実施するにあたっては、教職員の研修が十分に進んでいないこと、ALTの派遣日数が年間 3 日と非常に少ないことに加え、英語が苦手、発音に自信がない、毎回の授業の準備がたいへんという声が聞かれ、教職員の不安や負担感は大きい。以上のことから、これまでの活動のよさも生かしつつ課題を克服し、平成 23 年度に向かって旭丘小学校らしい外国語活動の時間を作り上げていくために、専門機関である宮城教育大学の英語教育講座と連携し、通年にわたって必要な支援を得ながら、活動を展開していくこととした。

## 2. 2 連携の実際

### 2. 2. 1 授業における連携

① 学生ボランティア・・・宮城教育大学初等教育教員養成課程英語コミュニケーション  
コース 3 年生 3 名

② 授業支援の内容

○5、6 年生の外国語活動

授業の準備・・・ コンピュータ・プロジェクター・スクリーンのセッティング、  
授業の流れの確認とデジタル教材・CDプレーヤーの操作練習、  
ピクチャーカード等の掲示

授業のサポート・・・《担任が授業を進めやすいように》

コンピュータやCDプレーヤーの操作、 単語やフレーズの発音、  
会話のデモンストレーション、 グループ活動の補助  
《評価に関して》 児童個々の活動の様子の記録

○1～4 年生の英語活動

英語活動のゲストティーチャーとして、学校側のねらいや取り上げてほしい内容に基づ

いて活動を計画し準備する。(指導計画案作成、教材作成) 学生ボランティアが中心となつて授業をリードし、担任がサポートする。

③ 支援の回数、期日および内容 (平成22年1月以降も継続)

回	期 日	内 容
1	7月16日(木)	6年1組授業L.3
2	7月29日(水)	教材作り、教室整備
3	9月3日(木)	6年1組授業L.3、授業準備、教材作り、教室整備
4	9月9日(水)	6年2組授業L.3、教材作り、教材整理、教室整備
5	9月16日(木)	5年2組授業L.3、授業準備、教材作り
6	9月24日(木)	教材作り、教室整備、掲示物作り
7	9月30日(水)	5年2組授業L.3、授業準備、教材作り
8	10月7日(水)	6年1組・2組授業L.4、授業準備、教室整備
9	10月21日(水)	6年2組授業L.4、授業準備、教材作り、教室整備
10	10月28日(水)	6年2組授業L.4、授業準備、教材作り、教室整備
11	11月18日(水)	教材作り(低学年授業用)
12	11月25日(水)	5年2組授業L.4、授業準備、教材作り、教室整備
13	12月9日(水)	5年2組授業L.6、授業準備、教材作り、教室整備
14	12月16日(水)	1年1組・2組合同授業、2年1組・2組授業

※その単元の授業の進め方についての説明および打ち合わせは、外国語活動担当者と学生で事前に実施しておく。(時間は適宜設定)

※その日の授業についての打ち合わせは、当日朝に行う。

④ 授業の様子について

○ 5、6年生の外国語活動の授業

《学習指導案の一例》資料1を参照

打ち合わせの際に、学生ボランティアには、どの部分をどのようにやってほしいかを書き加えながら使用した。

《児童の感想から》

- ・アルファベット・ソングが楽しかった。盛り上がった。(5年 歌についての記述多数)
- ・ゲームをしながら、勉強できるのがおもしろかったです。これからも、ゲームをしながら勉強したいです。(5年 ゲームについての記述複数名)

- ・わかりにくいところもジェスチャーでわかりました。とても楽しかったです。(6年)
- ・日本での食べ物の名前は、外国ではこんなにも発音が違うんだなあと初めてわかりました。(6年 発音・単語についての記述複数名)
- ・最後のゲームが楽しかったです。みんなと交流して遊ぶのが楽しかったです。(6年 ゲームについての記述多数)
- ・特に楽しかったのは、インタビューゲームです。友達の好きなスポーツや動物がしれたし、英語もちょっとできるようになったと思います。おうちでも、たまにお母さんとかと英語をしゃべるようになりました。(6年)

### 《学生ボランティアの感想から》

- ・英語を使ってゲームをするという意識がまだあまり高くないので、日本語が多くなってしまいがちでした。ジェスチャーを確認したときには、みんな楽しそうにやっていたのでよかったです。(9月)
- ・最初のアルフアベット・ソングから、ボランティアを積極的に進んでやってくれるようになり、外国語活動の授業に楽しさを見出してくれている子どもも見受けられたのでよかったです。グループワークなども、男女一緒になって、とても楽しそうに行っていたのは進歩だと思いました。(10月)
- ・英語に対してまだ抵抗のある子と失敗を恐れてなかなか英語を使えない子、様々なタイプの子がいるので、根気強く接していきたい。(10月)
- ・単語の復習では、「私はこれ発音できるぞ〜!!」というパワーが伝わってきた。リズムよく復習することができた。(11月)
- ・一人では自信がなくて話せなかったりする子も、グループワークになると積極的に取り組む姿が見られたので、高学年はグループワークの仕方次第で児童のモチベーションが変わってくるのだなあと感じた。(11月)



新しい単語を言ってみよう



グループでチャンツをしよう

### 《教員の感想から》

- ・学生ボランティアの方々にいろいろな教材・教具を作っていただいたこと、授業に入っていたいただいたこと、たいへんよかったです。このような支援がないと、年間 35 時

間実施は無理だと思います。体制として来年度以降も継続できるように確立していただくと助かります。

- ・ 外国語活動の部屋を整備してもらったお陰で、子どもたちも明るく楽しい雰囲気の中で学習を始められるようになりました。
- ・ 授業をする際に小学校における外国語活動のねらい（コミュニケーションの素地を養う）の確認や理解が十分でなかったのか、授業のとらえ方へのずれを感じました。連携する上では、担任とボランティアの共通理解が大切だと思います。

#### ○ 1～4年生の英語活動の授業

##### 《1、2学年学習指導案の一例》～略～

1、2年生では、英語に慣れ親しませることを目標に、歌やチャンツ、ダンス、読み聞かせを主な活動として、学生ボランティア中心に授業を進めた。

##### 《学生ボランティアの感想から》～1、2年の授業より～

- ・ 英語が分からないという声が多く聞こえた。最初は、恥ずかしさからか、あまり動きが見られなかったが、徐々に慣れてきて、ダンスのときは楽しそうにやっていた。
- ・ 日本語を多用せず、英語にジェスチャーをつけてやろうと心がけた。
- ・ チャンツやモンキーダンスを楽しみながら、英語のリズムや雰囲気を味わうことができたのではないかと思います。
- ・ お面をつけるとなりきって、鳴き声のまねをしてくれました。絵本もじっと見つめ、どんどん手が挙がり、充実した45分間でした。



モンキーダンスをしよう（2年生）

英語のお話を聞こう（1年生）

##### 《1、2年生担任の感想から》

- ・ 学生ボランティアの授業、最高でした。真剣で、準備物などもとてもよかったです。
- ・ 学生といえども、教材研究をしっかりとやっているのので、構成がとてもよかったです。低学年の場合は、ALTにお願いするよりも、今回のように学生さんで、楽しみながらの英語活動でよいのではないかと思います。
- ・ 学生ボランティアさんは、授業の進め方、子どもの扱い方がとてもよかったです。ALTのよさもあるが、今後続けていくのなら、学生ボランティアさんで、今回の活動のような

ものが子どもたちの興味・関心を引き出せるように思います。(1年生の場合です。)

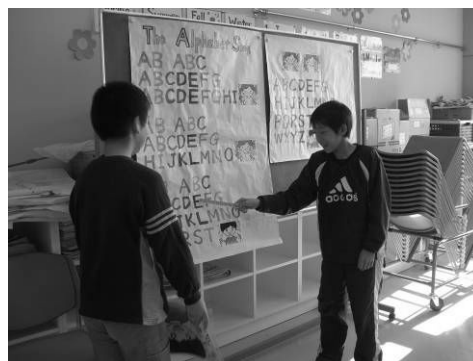
#### ⑤ 教材作りについて

夏休みには、5、6年生の英語ノート1を使った授業に必要な教材の作成をお願いした。デジタル教材を使用せず授業をすることも可能なようにピクチャーカード(大)を、グループワーク用にピクチャーカード(小)を6組作成してもらった。

その後、毎週の活動日には、授業の中で活用できそうなものを考え、積極的に教材作りをしてくれた。テーマソングにしている「アルファベット・ソング」の歌詞や曜日カードなどである。オリジナリティにあふれ、楽しくカラフルな教材は、児童の興味を引き、意欲を高めている。



ピクチャーカード(大)



「アルファベット・ソング」の歌詞

#### ⑥ 成果

毎週一回定期的に来校し、授業のサポート、授業のない日は、教材作りを行うというように、臨機応変に活動をしてもらえたことにより、学校、学級の都合や状況に合わせた無理のない連携ができた。教材作りや機器のセッティング等を学生ボランティアが支援することによって、準備にかかる時間が大幅に短縮され、十分な準備のもと授業に臨めるようになった。また、授業に学生ボランティアが支援者として加わり、英語の発音、教材の提示やコンピュータの操作、グループ活動のサポートなどをしてもらったことにより、教師、児童共に活動への不安が軽減され、リラックスした雰囲気ですムースに活動が進むことが多くなった。児童の感想を見ても、4~7月に比べ、友達や教師と進んで交流し、歌やゲームを楽しむ記述が増えていることからわかる。

また、学生は、年間を通して継続的に小学校で活動することにより、長期にわたって小学校の様子を知り、児童の変容や成長の様子を見ることができた。短期の教育実習では得られない体験である。ボランティア日誌の感想にも書かれていたように、各学級で授業支援を重ねる中で、英語活動における知識、技術・技能だけではなく、子どもの個性を知っている学級担任ならではの授業の進め方、児童とのかかわり方があることも学んだようである。また、高学年と低学年での授業を体験したことにより、それぞれの学年の特徴や発達段階の違いに応じた活動の進め方があることに気づいたことが感想よりうかがえる。

### 《学生ボランティアの感想から》

- ・低学年児童は、何でもお手本通りそのまますぐにまねをする。th や r などの子音のまねもとても上手。インプットをたくさんしてもよいと思う。
- ・高学年児童は、恥ずかしかったり自信がなかったりして、なかなか取り組めない子がいる。グループワークだとできるようだ。グループワークの仕方を工夫するとよいと思う。
- ・1、2年生のげんきなパワーに圧倒されました。担任の先生がいなかったら、收拾のつかないことになっていたと思うので、本当に担任の存在は子どもにとって安心できる存在なのだと感じました。
- ・担任の先生がオリジナルゲームということで、いろいろ工夫してくださったので子どもたちがとても盛り上がっていた。
- ・担任の〇〇先生が授業を進めていらっしゃって、とてもスムーズに授業が進んだ。やはりホームルームティーチャーの力は大きいと実感した。

## 2. 2. 2 環境整備における連携

本校では、5、6年生の教室に近い教材室を外国語活動の部屋として活用することになった。普段学習する教室ではなく別の教室で活動することで、児童も教師も気持ちをリフレッシュして、授業に臨むことができると考えた。外国語活動の部屋を設置することで、教材の使用や保管がしやすく、教材の掲示、コンピュータのセットなど、あらかじめ準備をしておくことも可能であるという利点もある。さらに、児童の意欲や興味を喚起するためには、教室を整備し英語に親しみを有する環境にすることが必要であると考え、学生ボランティアの力を借りることとした。



教室の前面



教室の背面

写真のように、教室の掲示物が増えるに従って、壁面がカラフルになり楽しい雰囲気醸し出され、児童がリラックスして授業に取り組めるようになったように感じる。使った教材なども掲示しておくことで、これまでの学習をいつでも目にすることができ、今の活動にも生かしていくことができると思われる。

### 2. 2. 3 現職教育研修における連携

① 講師：鈴木 渉 氏

(国立大学法人宮城教育大学 英語教育講座講師)

② 参加者：仙台市立旭丘小学校の教員

③ 講演内容：1. 日本人の英語力の現状  
2. 外国語を学ぶというのはどういうことなのか  
3. 小学校外国語活動の課題



④ 成果：第二外国語（英語）習得についての世界的な動向から日本の小学校で外国語活動を実施するにあたってまでをグループワークを取り入れながらお話を進めていただいたことで、教員個々が自分の問題として考え、率直に意見を交換するよい機会となった。講師の先生への質問が多く出されたことから、外国語活動への意識が高まったことがうかがえた。

#### 《参加した教職員の感想から》

- ・「外国語だから特別なテンションではなく、他の授業と一緒に考えて」等、教師側が特別な意識を持ったり、先入観を持ち過ぎなくてもよいことを確認させていただき、ハードルが低くなりました。
- ・講義としてお話をずっと聞くことも参考になりますが、今回のように、まずメモ用紙に自分の意見を書き、そのあとでグループごとの話し合いの材料に使用したことで、他の方の意見を聞くことができ、とてもよかったです。
- ・小学校外国語活動の課題；評価について。自己評価を授業直後に行うことが効果的で、教師の意図と子どもたちの気づきをマッチングできることがわかった。



メモを活用したグループ内の意見交換

### 2. 3 一年間の連携を振り返って

今年度は、学生ボランティアの活用、校内研修への協力の2つを中心に連携を行った。前者については、教材作り、教室整備での功績は大きく、今年度予定していたことがすべて達成された。授業においては、ボランティア学生に大学において培ってきた英語力や activity の実践力を存分に発揮して、本校の外国語活動および英語活動をサポートしてもらった。さらに年間を通して定期的に来てもらったことで、学校側としても活動を計画しやすく、効果的な連携ができた。課題としては、5、6年生の外国語活動において、学生ボランティアと学級担任の直接の打ち合わせがほとんど行われなかったことが挙げられる。担当教員（五十嵐）が仲立ちをしたが、それでは十分な共通理解のもと授業をすることが



できなかったことが反省として出された。次年度実施するにあたっては、学級担任と打ち合わせする時間の確保を考えていきたい。後者においては、鈴木氏の講演がとてもわかりやすく興味深いものだったと好評であった。次年度も継続実施をお願いし、教師の意識や意欲を高めながら、外国語や英語に対するハードルを低くしていきたい。時期的には、年度の前半に設定するとその後の授業に生かせる研修になると思われる。

本校外国語活動および英語活動初年度にあたり、1からすべてを計画、実施、整備していかなければならなかった。宮城教育大学との連携なしには成し得ないことであった。次年度の外国語活動は、6年生では『英語ノート2』が導入され、年間35時間実施の予定となっている。新たな教材作りや授業への支援が必要とされるであろう。今年度の成果をふまえて、宮城教育大学との連携をさらに進めていきたい。

### 3. 仙台市立川平小学校における実践

本校は、平成15年度より英語活動を実施してきており、平成20年度は各学級平均年8回実施した。そのうちの3回程度は、近隣中学校から派遣されたALTと学級担任とによる英語活動である。こうした英語活動を行うことで普段あまり話さない友達とも話す機会ができたことや、ALTと学級担任とのティーム・ティーチングでの授業を行うことで日本人にはないしぐさや感覚の違い、発音の違いなどを体験する、他国の文化を知るなど、教育的効果は大きいものであった。その一方で、下記のような問題も生じていた。

- ・指導案や授業の目標を説明したいが、語いの不足等で十分に理解させられない。
- ・小学校側が希望する日程と、中学校側の日程とが合わない。
- ・系統立てた指導計画や教材を作成する時間が十分に確保できない。
- ・自分の発音や英語表現が正しいか自信がない。
- ・どんな授業を組み立てたらよいのか自信がない。

また、新しい学習指導要領で小学校外国語活動が新設さるなど教育課程も変更されたため生じた問題もある。まず、5・6年生は学習指導要領の目的に合致する指導計画を立てなければならないが、学習指導要領を熟読し理解する時間の確保もままならない状況である。また、4年生以下の英語活動は教育課程内に置くことはできなくなった。こうした問題を踏まえ、本校では、平成21年度の外国語活動・英語活動を下記のように整理した。

学年	時数等	目標	指導計画
1・2年	6時間(2単元)英語活動 教育課程外(余剰時間を活用)	楽しく英語に慣れ親しむ	本校で作成
3・4年	6時間(2単元)英語活動 教育課程外(余剰時間を活用)	言語や文化について体験 的に理解を深める	本校で作成
5・6年	15時間(4単元) 外国語活動として	学習指導要領外国語活動 の目標に同じ	英語ノート指導 資料による

1・2年生では、単語が意味するものが何かといったことよりも、英語の歌に合わせて踊ったり歌ってみたりという活動を重視して、英語に慣れ親しむことを目標とした。3・4年生では、1・2年生よりももう少し言葉として理解を深めるように目標を設定し、5・6年生の外国語活動に続くように配慮した。

このように学年系統をつけてみると、5・6年生は資料・教材等が文部科学省から配布されているものの、1~4年生に関しては指導計画を立案することや教材作成の負担が大きいことや、授業において教員が英語を使う率が外国語活動よりも高くなってしまい、英語発音の不安感等が大きくなってしまった。こうした負担や不安を軽減する一助とするため、宮城教育大学3年生の学生2名を授業支援ボランティアとして派遣依頼をした。

### 3. 1 教材作成ボランティア

夏休み期間中に、本校で決めた単元のテーマに合わせて、活動に使用できる教材作成の支援をお願いした。出来合いの購入教材ではなく、指導計画に沿って作った教材のため、活動の主旨に合っていて使いやすかった。また、他のゲームや活動にも利用できる可能性のある教材であった。絵柄は、学生の若い感性があふれ、児童にとって親しみのあるカードとなっていた。ゆっくりと教材を作る時間のない学校現場で、こうした教材は大変貴重な財産でもある。

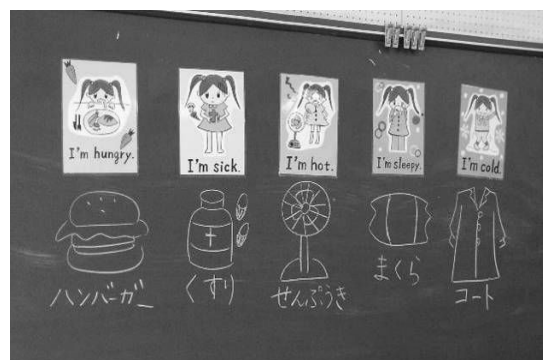
#### (1) 感情カード (3・4年生で活用)

掲示用カードは、表情がよく表されており、黒板に掲示するのにちょうどよい大きさであった。手札サイズの感情カードは、各自に持たせてフルーツバスケットに活用した。「ハンバーガー」「薬」「扇風機」などのカードはマッチングゲームに活用した。マッチングゲームは、互いの情報を聞きあわないとできないゲームで、本校教員にとって大変勉強になった。



「マッチングゲーム」の実際：

感情カードを持つグループと「ハンバーガー」などの感情と対応する物カードを持つグループとにクラスを分ける。対応する物カードを持つ児童が、感情カードを持つ児童に声をかける。“Hi. How are you?” 感情カードの児童は自分の持つカードの感情を伝える。“I’m ○○.” ここで hungry---ハンバーガーなど、対応していればマッチングしたことになり、ペア成立となる。



(2) “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?” に関連した教材

(1・2年生で活用)

絵本“Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?”を読み聞かせるに当たり、そこにでてくる動物の掲示用カードを作成してもらった。動物はきれいに切り取って透明フィルムで保護し、そのシルエットでもゲームができるように工夫されており、いろいろなゲームを展開できるカードであった。手札カードは、動物と色との組み合わせでマッチングゲームができるようになっている。これも、絵本通りのペアを作るゲームのほか、色と動物のランダムな組み合わせでゲームを進めることも可能である。



(3) 数字カードと手札サイズカード (グループ分)

掲示用カードと同じ絵柄で手札サイズのカードのセットがグループ分あるので、カルタゲームなどに活用できる。



(4) 色々ミニドラ掲示用カード

(昨年度の学生ボランティアが作成 今年度3年生で活用)



(5) お天気カード掲示用と手札サイズカード

(昨年度の学生ボランティアが作成 今年度4年生で活用)




### 3・2 授業支援ボランティア

#### 3. 2. 1 4年生でのボランティア活動

1単元3時間の英語活動に、支援ボランティアとして9月に入ってもらった。あらかじめ、4年生学年主任がボランティア学生に単元のテーマなどを伝え、学生はそれに合わせて教材を作成した。また、その教材を使用して20分ほどの活動計画を3回分組み立て、担任に提案する形をとった。担任が組み立てた活動の部分では、学生ボランティアが活動を盛り上

げ、児童の活動をサポートするなどして支援をした。また、学生ボランティアが組み立てた部分では、担任は配慮を要する児童の支援を手厚くするなど役割分担をして進めることができた。

- ① テーマ 気持ちを表そう (3時間扱い)
- ② 活動場所 各教室
- ③ 活動案

	活動の流れ	教材
第1時	1 ボランティア紹介 (担任) 2 福笑い (担任) 3 気持ちの表し方を知る (ボランティア) sad、happy、cold、hot、 tired、sleepy、sick、 hungry How are you? 4 ジェスチャークイズ (ボランティア)	福笑いセット 感情カード (掲示用)
第2時	1 じゃんけんゲーム (担任) 2 キーワードゲーム (担任) 3 感情表現の復習をする (担任)  4 フルーツバスケット (ボランティア) 5 絵合わせゲーム (ボランティア) 6 じゃんけん列車 (ボランティア)	感情カード (掲示用) 感情カード (手札サイズ)
第3時	1 気持ちの復習をする (担任) 2 絵合わせゲーム (ボランティア) 3 天気を表す表現を知る (担任) 4 陣取りゲーム (ボランティア)	感情カード (掲示用) 感情カード (手札サイズ) 天気カード

### 3. 2. 2 1年生でのボランティア活動

12月には1年生の英語活動に、1単元3時間の英語活動のうちの2時間に支援ボランティアとして入ってもらった。担任が「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」の絵本を読み聞かせを行い、それに関連したゲームを学生ボランティアが20分間で提案する形式で進めた。学生が提案してくれたゲームは、動物のシルエットを活用したり、色と動物をマッチングさせたりする工夫がされており、他学年での英語活動にも応用できるものであった。マッチングゲームはペアで活動するが、2名の学生ボランティアがデモンストレーションしてみせるため大変分かりやすかった。

- ① テーマ 動物 (3時間扱い)
- ② 活動場所 各教室
- ③ 活動案

	活 動 の 流 れ	教材
第1時	担任とALTでの活動	
第2時	1 ボランティア紹介 (担任) 2 「Hello!」を歌う (担任) 3 動物の名前の確認 (担任) 4 「Brown Bear、 Brown Bear、 What Do You See?」の絵本を聞く (担任) 5 シルエットクイズをする (ボランティア) 6 鳴き声当てゲーム (ボランティア)	CD 動物カード 
第3時	1 「Hello!」を歌う (担任) 2 動物の名前の確認 (担任) 3 「Brown Bear、 Brown Bear、 What Do You See?」の絵本を聞く (担任) 4 マッチングゲームをする (ボランティア)	CD 動物カード 色カード 

### 3. 2. 3 授業後の感想

(学生)

○川平小学校でのボランティア活動は大学で学んだことを生かす場として、大学では学べないことを学ぶ場として、たくさんのことを得ることができ、とても貴重な経験になった。川平小学校の子どもたちとふれ合うことで、子供たちに外国語を教えることの楽しさや素晴らしさに改めて気づくことができた。



○大学で授業設計の方法や技術は学んでいたが、実際に現場でしかも児童を前にして授業ができるのかとても心配だった。特に難しかったのは英語をどの程度使った授業をするべきか判断すること。多くの英語を使うことには不安があったが、実際には、授業で英語を多用しても、なんとかして聞き取ろうという姿勢が児童にみられた。こちら側が勝手に児童の限界を作ってしまうはいけないことを改めて学ぶことができた。教師になったらこの経験を生かして、英語教育推進に力を注ぎたいと考えている。

(教員)

○ALTの先生とはまた違った感じで、「日本人で、かつ英語ができるお姉さん」である学生ボランティアは、子どもたちにとってとても親しみやすく、学習もよく進んでいた。

○優しく、どの子どもにも公平に接してくれていた。

▼事前や事後の打ち合わせの時間が取れば、もっと効果的に進めることができると思える。

○効果的な教材を準備してもらえて大変よかった。

○学生ボランティアが入ったことで、明るく元気な雰囲気になった。

▼担任と学生ボランティアの出番を明確にすると、もっと楽しい授業にできた。

(打ち合わせの時間が足りなかった)

○英語を専攻している学生なので、担任よりもたくさんの英単語を知っており、発音も正確だと思うので、安心して任せられた。

○学生ボランティアが中心にすすめてくれる部分では、教材の提示の仕方や英語での指示の仕方など、大変勉強になった。

○今まで知らなかったゲームを紹介してくれたので、ぜひ来年度には自分でやってみようと思った。

### 3. 3 その他の支援ボランティア

#### 3. 3. 1 外国語活動振り返りカードのへの支援

5・6年生では、外国語活動1時間ごとに振り返りカードの記入を児童にさせていた。そうしたデータの入力を支援してもらった。

#### 3. 3. 2 振り返りカードの個人冊子作成支援

振り返りカードは、個人ごとに今年度1年間分をまとめて1冊にした。装丁するにあたり、イラストを描くことが得意だという学生だったので、表紙などを作成してもらい、児童それぞれの貴重な記録として残せるように支援してもらった。



### 3. 4 まとめ

今年度本校の教員研修計画では、外国語活動指導力向上が重要なねらいの一つとなっている。そうした中、クラスルームイングリッシュなどを全く学んでこなかった現場の教員にとっては、CDなどで表現・発音を学びつつ、英語専攻の学生が実際に活動の中で英語を使う様子を見ること自体が大変有効な研修でもあった。

一単位時間の活動計画では、担任と学生ボランティアそれぞれがテーマに沿って20分間ずつの活動を計画することで、打ち合わせの時間等の削減を図った。事前打ち合わせがあればもっと効果的にできたとの声もあるが、時間を有効に使いつつ効果的に授業を進める方法の一つだった。また、

今年度のボランティア活用では、英語活動支援として予算が付いたことで、教材作成のための十分な材料を確保することができ、安心して依頼することができた。学生も、学生らしい若々しいアイデアを盛り込んだ教材を作ることができ、また、小学校に移動せずに大学内で教材作成の場所が確保できたことは、学生の安全性や時間の有効活用の点でも大変よかった。

## 4. おわりに

本稿では、宮城教育大学英語教育講座と仙台市立旭丘小学校・川平小学校の連携として、学部学生が小学校の外国語活動をボランティアとして支援した実践を中心に紹介してきた。本実践は、小学校の学級担任、外国語活動を担当する教員、ボランティアとして参加した学部学生の感想から分かるように、概ね、成功したと考えられる。その理由として、一過性の支援にとどめず、支援を継続しておこなったことが要因として考えられる。今後は、小学校での様々な活動への学生の参加の機会を設定することなどにより、学生ボランティアと小学校の教員の間により一層の親近感が生まれるだけでなく、学生ボランティアが地域、学校、子どもの状況を把握することにつながり、そのことが外国語活動の円滑な実施につながるのではないだろうか。本実践を通して得られた留意点としては、学級担任や

担当教員と学生ボランティアが事前及び事後の話し合いを十分に行う必要があるということである。学生ボランティアの英語の知識・スキルや経験を活用するためには、事前・事後の十分な話し合いの機会を設けることが重要であろう。また、大学においては、学生に小学校外国語活動の趣旨を正しく理解させるとともに、子どもが外国語を学習するメカニズムやプロセスをきちんと把握させるような講義・演習を提供していく必要がある。本実践の経験を生かしながら、今後も、宮城教育大学が、地域資源として、小学校と連携しつつ、外国語活動を支援していくことができると考えている。

## 謝辞

本実践は、仙台市立旭丘小学校の佐藤悦雄校長先生をはじめ諸先生方、仙台市立川平小学校の佐々木浩二校長先生をはじめ諸先生方のご協力があつて、成しえたことである。ここに記して感謝を申し上げたい。また、本実践を行うに当たり数々の助言を頂きました宮城教育大学の板垣信哉教授にも感謝申し上げます。ボランティアを1年間継続して行ってくれた、荒井祿恵さん、児玉愛さん、気田真由子さん、佐藤秀太郎さん、畑山亜里沙さんの5人の学生にも感謝の意を表したい。本実践は、宮城教育大学国際理解教育研究センタープロジェクト研究「国際理解教育としての英語教育を担う教員の養成に関する研究－理論、実践、演習を有機的に統合するプロジェクトの開発－」（代表：鈴木渉）の支援を受けて行われた。

## 参考文献

- 岡秀夫 金森強 2009 『小学校英語教育の進め方－「ことばの教育」として－』成美堂  
文部科学省 2008 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社  
文部科学省 2009 『小学校外国語活動研修ハンドブック』旺文社

- |             |    |       |   |
|-------------|----|-------|---|
| － 仙台市立旭丘小学校 | 教諭 | 五十嵐淑子 | － |
| － 仙台市川平小学校  | 教諭 | 加藤 真理 | － |
| － 宮城教育大学    | 講師 | 鈴木 渉  | － |



資料 1

2009年度 第5、6学年第10回外国語活動学習指導案（10月 日分） 旭丘小学校

題材	自己紹介をしよう I like apples. (英語ノート1 L.4) ②		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好き嫌いを相手に伝えたり、たずねたりする。</li> <li>・学んだ英語でのものの言い表し方を使って、教師や友達とのかかわり合いやゲームを楽しむ。</li> </ul>		
言語材料	I like <u>apples</u> . (sports、 subject s) Do you like apples? Yes、 I do. / No、 I don't.		ボランティアが複数いるときは、1名は児童個々の活動の様子を記録する。
指導過程			
過程 Process	教師の活動 Teacher	児童の活動 Student	準備物
あいさつ Greeting	1、はじめのあいさつ <b>Hello、 everyone!</b> <b>How are you?</b> <b>I'm fine. Thank you.</b>	担任と共に児童とあいさつする。 <b>Hello、 ( ) sensei!</b> <b>I'm fine. How are you?</b>	感情を表す絵カード 4枚
歌 Sing a song	2、今日の日を <b>What is the date today?</b>	児童同士で挨拶し合う。 カレンダー、月カードを見ながら今日の日にちを言う。	月カード、数字カード、カレンダー
今日の活動 Today's activities	3、歌 <b>Let's sing a song.</b> ①『The Alphabet Song』	T 1 として手拍子をした歌、動作等をおかしながら歌う。	アルファベット表 CD
Let's chant!	4、スポーツと教科の英語で言い方を知らせる。	リードする。た言葉（スポーツ、教科）を繰り返して言う。	スポーツ・教科の絵カード 18枚
	5、好きですかの言い方を知らせる。	絵カード提示。発音のモデルを示す。 物についての会話を聞いて、言い方に慣れる。隣同士で会話してみる。	担任とロールプレイをしてモデルを示す
Let's play the game!	6、チャンツ『Do you like ~?』 各班をまわりながら、とまどっている児童に支援する。	4～5人の班毎に円をつくりリズムに合わせて質問と順番に言う。 スポーツ、教科の中から選んで、学んだ言い方で友達にインタビューする。	英語のフレーズカード
児童とあいさつする。	あいさつをする。 <b>That's all for today. You did a good job. Good-bye. See you next time.</b>	あいさつをする。 <b>Thank you. Good-bye. See you.</b>	インタビューカード
			担任と共にチャンツの仕方のモデルを示す。個別に支援する。
			ゲームに加わって児童と会話。個別支援。